令和元年度　能登町立能都中学校　学校評価中間報告

学校教育目標	調査項目	対象	A 当てはまる	B どちらかといえば当てはまる	C どちらかといえば当てはまらない	D 当てはまらない	肯定的回答 A＋B	評　価 A：85%以上100%（継続）　B：70%以上85%未満（継続・改善） C：50%以上70%未満（要改善）　D：50%未満（至急対策検討）		参考 前年（中間）の肯定的回答
きめ細かな学校運営	今年度の個人の目標達成に向けて、改善が図られている。	教職員	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	80.0%	B	2学期以降に各教職員の個人目標の達成に向けた取組を促進させていきたい。	93.7%
	自分のワークライフバランス（働き方の見直し）に効果を感じる。	教職員	15.0%	70.0%	10.0%	5.0%	85.0%	A	昨年度のC評価より大きく評価を上げた。引き続き見通しを持って業務にあたることができる職場環境を目指す。	50.0%
	チームによる学校運営が行われている。	教職員	20.0%	65.0%	15.0%	0.0%	85.0%	A	昨年度と比べ各種校内委員会や部会を機能させてチームによる取組を進めてきたことにより評価が上がった。	81.2%
	学校は忙しいが、楽しい。	教職員	25.0%	45.0%	25.0%	5.0%	70.0%	B	昨年同期のC評価から評価を上げた。上記働き方の見直しとチームによる学校運営をさらに充実させることにより、A評価を目指したい。	68.7%

学校教育目標	調査項目	対象	A	B	C	D	肯定的回答	評　価		前年（中間）の肯定的回答
確かな学力の定着	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	生　徒	56.2%	41.7%	1.4%	0.7%	97.9%	A	昨年度より、学校研究で聞く態度や姿勢の充実を図ってきている。今後は聞いた内容を自分の考えに生かすことを充実させたい。	96.6%
	授業では自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。	生　徒	56.1%	40.3%	2.9%	0.7%	96.4%	A	生徒が自分の考えを話す機会は十分に確保できている。今後はわかりやすく説明したり考えの根拠を明確に伝えたりすることを充実させたい。	93.9%
	授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	生　徒	66.9%	31.7%	1.4%	0.0%	98.6%	A	生徒間の話し合いはよく行われている。今後はよいよい人間関係やコミュニケーション能力の充実と併せ、話し合いの活動の内容の充実を図りたい。	94.6%
	授業で自分の考えを発表する機会で自分の考えはうまく伝わるよう資料や意見自分の考えなどを工夫して発表していると思う。	生　徒	28.8%	55.4%	14.4%	1.4%	84.2%	B	昨年度に比べ工夫して発表していると答えた生徒の割合が高くなった。話し合いによる意見交流の場面の授業改善を進めていきたい。	80.4%
	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	教職員	47.1%	35.3%	17.6%	0.0%	82.4%	B	どの教科においても、単元の授業計画の段階から授業で学び合いが取り入れられるかの吟味を行い、実施可能な授業について学び合い活動を取り入れている。	78.6%
	学び合い活動で、生徒は学びに楽しさを感じている。	教職員	23.5%	58.9%	17.6%	0.0%	82.4%	B	昨年度に比べ「当てはまる」とした回答が大きく増えた。益々生徒に学習の楽しさを味わわせることができる授業の工夫をしていきたい。	78.6%
	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	教職員	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%	44.4%	D	主体的、対話的な学びや深い学びについての理解が進んできているが、授業に具現化させていくための具体的イメージの共有を進めていきたい。	43.0%
	「振り返り」から生徒の考えの変容が感じられる。	教職員	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	77.8%	B	振り返り活動の有用性については全体で理解をしており、授業における実践も進んできている。併せて次時の学習意欲へとつながる振り返り活動となるよう進めていきたい。	50.0%
	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	教職員	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	77.8%	B	今年度、各教科の授業で日常生活と関連した指導を行う授業を位置づけ、年間指導計画に印をつける取組を進めている。	71.4%
	授業では、ICTを活用している。	教職員	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%	A	ICTについては、すべての教科、教員が積極的に活用している。生徒の興味・関心や意欲、また、授業の効率化につながる取組として推進していきたい。	71.4%
	授業の約束4か条は守られている。	教職員	27.8%	61.1%	11.1%	0.0%	88.9%	A	私語を行わず授業に集中して臨めるよう、全校で私語を行わないことを徹底する日を設けて、生徒への意識付けを行っている。	85.7%
	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	教職員	17.6%	58.9%	23.5%	0.0%	76.5%	B	1週間分の家庭学習の課題を掲示したり、毎日の宿題提出を徹底させたりなどの取組を続けているが、目に見えた家庭学習の時間増加にまでは至っていない。	64.3%

学校教育目標	調査項目	対象	A	B	C	D	肯定的回答	評　価		前年（中間）の肯定的回答
心と身体の育成	自分にはよいところがある。	生　徒	30.2%	45.3%	18.0%	6.5%	75.5%	B	昨年より若干増えてはいるが、さらに自己有用感を持つ生徒が増えるよう、一人一人が活躍できる場を提供したり、プラス言葉をかけあえる関係づくりを進めたりしていきたい。	73.6%
	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	生　徒	81.3%	13.7%	3.6%	1.4%	95.0%	A	肯定的回答が100%となるよう、道徳の時間の充実や学級指導、教育相談の機会を通じて指導していきたい。	96.6%
	道徳により、生徒は自分事として道徳的心情を育てようという意識を感じる。	教職員	5.9%	70.6%	23.5%	0.0%	76.5%	B	今年度道徳については外部からの講師を招聘しての研修や校内研を定期的に実施し、道徳授業の充実を目指している。	44.4%
	能都中の生徒は、友達に対して優しく接していますか。	保護者	24.0%	66.4%	9.6%	0.0%	90.4%	A	礼儀正しい言葉遣いや挨拶ができることは人間関係づくりの基本として重視していかなければならない。よりよい学校集団を目指し指導していきたい。	88.2%
	能都中の生徒は、礼儀正しい言葉遣いや挨拶をしていますか。	保護者	23.2%	55.2%	18.4%	3.2%	78.4%	B		86.8%
	調査項目	対象	A 1時間未満	B 1時間以上 2時間未満	C 2時間以上 3時間未満	D 3時間以上	A回答	評　価		
	お子さんの家庭でのSNSの利用時間は？	保護者	39.2%	31.2%	16.0%	13.6%	39.2%	D	まず「D」回答の割合を減らしたい。SNS利用時間が多い生徒との個人面談や学級指導等の生徒指導、また、保護者と連携して対応していく。	

令和元年度　能登町立能都中学校　学校評価中間報告

学校教育目標	調査項目	対象	A 当てはまる	B どちらかといえば当てはまる	C どちらかといえば当てはまらない	D 当てはまらない	肯定的回答 A＋B	評　価 A：85%以上100%（継続）　B：70%以上85%未満（継続・改善） C：50%以上70%未満（要改善）　D：50%未満（至急対策検討）		参考 前年（中間）の肯定的回答
魅力ある学校への取組	学校へ行くのは楽しいと思う。	生　徒	48.9%	36.0%	12.9%	2.2%	84.9%	B	日常の学習、部活動の充実の他、教育相談等を通してよりよい人間関係の構築を目指していき、楽しくないと感じる生徒を減らしていきたい。	83.1%
	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う。	生　徒	47.5%	44.6%	7.2%	0.7%	92.1%	A	昨年より肯定的回答を増やしているが、今後とも様々な学校生活の場面で生徒を認める機会を逃さず増やしていきたい。	83.1%
	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	保護者	40.0%	50.4%	6.4%	3.2%	90.4%	A	生徒の回答と同様、子供が学校生活を楽しいと感じていない保護者の割合を減らすため、さらに生徒の活躍の場や認められる機会を増やしていきたい。	87.4%
	お子さんは、目標を持ち、それに向かって努力していますか。	保護者	25.6%	45.6%	24.0%	4.8%	71.2%	B	肯定的な回答が少し増えた。2学期以降能都中検定を実施し、家庭学習と関連付けるなどしてすべての生徒一人一人に学習の目標を持たせていきたい。	68.8%
	学校生活において目標を持たせたり、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	教職員	21.1%	78.9%	0.0%	0.0%	100.0%	A	1週間分の家庭学習内容の掲示やさらに勉強したい生徒に向けた「プラス1」課題の準備等、生徒が学びを進めていくための環境整備の充実を図っている。	86.7%
	プラス思考やプラス言葉が増え、人間関係が改善されてきた。	教職員	10.5%	57.9%	31.6%	0.0%	68.4%	C	プラス思考への意識付けの他。目標を持って行動すること、互いに相手意識を持って接すること、ルールやマナーを守りことなどを通してよりよい念願関係作りを目指したい。	68.7%
	自問清掃では、生徒に自問の意味を感じさせている。	教職員	15.0%	65.0%	20.0%	0.0%	80.0%	B	今年度掃除活動の見直しをし、掃除の時間を無言で取り組むことを目標にした。すべての生徒が時間一杯、無言で清掃する指導を続けていきたい。	50.0%
	生徒の主体的な活動を推進させ、自己肯定感が高まってきている。	教職員	15.8%	68.4%	15.8%	0.0%	84.2%	B	昨年度より大きく評価を上げた。今後とも学習、部活動の他、学校行事、生徒会活動等を通じて全教職員で生徒の自己肯定感を高める働きかけを行っていく。	56.3%
	生き方を考えるキャリア教育は、将来の夢や希望につながっている。	教職員	10.5%	84.2%	5.3%	0.0%	94.7%	A	昨年度より大きく評価を上げた。今年度も2年生を中心に行政や大学生の支援を得ながらキャリア教育を進めていく。	71.4%

学校教育目標	調査項目	対象	A	B	C	D	肯定的回答	評　価		前年（中間）の肯定的回答
家庭・地域・小高学校との連携	授業や学校行事等の人材活用は効果がある。	教職員	42.1%	52.6%	5.3%	0.0%	94.7%	A	2学期以降、キャリア教育や海洋教育などの他、道徳についても外部人材を活用して教育充実を図っていきたい。	100.0%
	小中高連携により、系統的な教育効果を感じる。	教職員	5.3%	36.8%	57.9%	0.0%	42.1%	D	小中の連携では校長・主任等の協議を行い、学習面や生活面での共通理解と共通実践を行っているが、系統的な効果を感じるには至っていない。	40.0%
	能都中の教職員は、保護者の依頼に対して誠実に対応していますか。	保護者	48.0%	50.4%	0.8%	0.8%	98.4%	A	良い回答を得ている。今後とも100%を目指して改善していきたい。	98.5%
	学校のHPや各種お便り等で情報は十分ですか。	保護者	44.4%	48.3%	6.5%	0.8%	92.7%	A		95.3%
	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノー（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいますか。	保護者	11.4%	30.1%	36.5%	22.0%	41.5%	D	低い評価となっている。3ノーについては、生徒一人一人にその認識と自覚が最も大切である。学級指導や集会等を通じて自覚を持たせる取組を進めていく。	39.5%